

～ 「安く役に立つ」生産管理システムをめざして ～

「生産管理システム」構築を目指したわけ

ATACで「生産管理システム」構築のサービスを開始して2年が経ちました。お陰さまでこの間に数社のシステムを作らせていただき、運用していただいています。

世の中には幾つもの「生産管理システム」があり、またソフトウェアハウスに依頼されて専用のシステムを構築されている例も多いようです。しかしこれらのシステム作りの最大の問題はその価格にあり、数百万から数千万円もかかるのが一般的のようです。パッケージの場合数百万円位で非常に充実した生産管理システムが提供されていますが、これをそのまま使えることは殆どなく、その工場に適した内容にカスタマイズする必要がありますが、これを入れると結局数千万円になり、しかも折角充実した内容のごく一部分しか使わないということが言われています。

「生産管理システム」は高いということが、中小企業特に従業員50人以下位の規模の工場システムが入らない最大の理由になっています。

また折角高いお金を払ってシステムを導入したけれども、中味が自社の作業の流れに合わず、散々苦労した揚句結局お蔵入りしたままだということもよく聞く話です。

ATACが考える「生産管理システム」とは

ATAC ではこれらの状況を参考に次の3点をモットーに「生産管理システム」作りのサービスを始めました。

安い 疾い 役に立つ

従来のシステムが高すぎると感じておられる中小規模工場でも使っていただけるための手頃な価格ということで50万円以下に設定しました。

番目の「疾い」という課題に対して契約後6ヶ月以内の運用開始を目標にしましたが、今のところ目標期間を少しオーバーしており、今後の改善課題の一つです。

私共が最も力を入れていることは上記の番目の現場で本当に役に立つシステムを作ることです。先に述べましたような高価なシステムを導入したけれど結局は役に立たなかったという話をよく聞くからです。そのために毎回の打合せ内容により1～2週間後にはそこまでのシステムを作り、それを見ながら内容をチェック、必要に応じて修正し、そこまでを納得いただいたら更にその次の段階の検討を行なうことを繰り返して完成に近づける方法をとっています。一般的にこの方法をプロトタイプ法と呼び、従来のシステム作りの常道であった方法 “仕様打合せ完了後にはプログラミング終了まではユーザーの意見を受け付け

ない”と異なり随時意見を言い、訂正を繰り返すという進め方です。

これはシステム作りに時間がかかり、システムを作る側に負担を強いるものですが、ユーザーが本当に作りたいシステムを作るためには欠かせない方法だと考えています。そのせいか、これまで作ったシステムで使えないとか使い難いという苦情をお聞きしたことはありません。

誰もが使いやすいシステムを

これまでの経験を踏まえて一層使いやすい、そして「見える化」を徹底するために今後以下のことに力を入れたいと考えています。

1. アクセスを極める

ATACが提供しているシステムはデータベースソフトであるアクセスを使って構築しています。

このソフトは初心者でも少し勉強すればシステム作りに利用できますし、そして大変奥が深いと感じています。先に述べたプロトタイプ法のためにはもって来いのソフトです。

私共も未だその優れた内容の一部しか使いこなしていないので、今後まだまだ勉強が必要なことを痛感しています。

2. エクセルとの連携

エクセルは非常に有能なソフトで工場の事務処理等にも凄く普及しており、アクセスでシステム作りをしている我々もこれを利用しない手はありません。アクセスで処理したデータをエクセルの表やグラフで出力することで、一層使いやすい形でデータを提供したいと考えています。

3. バーコードの活用

最も安価で便利な入力道具としてバーコードの存在価値が大ききことを身をもって感じました。今後その応用を拡げ、システムに組み込んでいく積りです。

そして儲けるためのシステムへ

製造現場でのシステム構築は日々のデータをきちんと記録し、必要な人が利用できるようにする、いわゆる「見える化」から入るのが普通です。

しかし本当のシステム化は管理（例えば「受注管理」、「進捗管理」、「在庫管理」など）の充実に役立てることにあります。そして中小規模の企業では遅れていると見做される「原価管理」システムの構築まで進むべきだと考えています。

管理の最終目標は儲けることです。私共も企業様と協力して「儲けるためのシステム」作りを目指して頑張る積りです。（成富記）